

2019年(平成31年)4月5日(金曜日)

中国からの留学生であるKさん(女性)のお話です。期待と不安の入り混じる気持ちで来日したKさんは、ある夜、「この町が好きになる」出来事を体験したといいます。

その夜、道に迷ったKさんは、たまたま通りかかったおばあさんに大学の学生寮への道を尋ねました。すると、「こんな遅い時間に一人では危ないよ」と言っておばあさんが寮まで送り届けてくれたのです。Kさんはこう記しています。「私は、おばあさんの好意に甘えて無事に寮

道徳で人と社会を幸せに

に着いたが、一人で暗い夜の中に消えていったおばあさんの後ろ姿を見て、目が潤(うる)んでしまった。私の安全を心配したおばあさんは、自分の帰り道が怖くないのだろうか…(留学生の目に映る町の人々)柏南ロータリークラブ

思いやりの心に基づく小さな行為。それは多くを語らなくても、ふれあう相手の心から感謝の気持ちを引き出し、その相手の優しさをも呼び覚まします。

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(平成31年)4月12日(金曜日)

夫婦が仲睦(なかつむ)まじく暮らすには、相手の欠点ではなく「美点」を見つめる姿勢が大切です。Kさん夫妻は、自身が手本とする兄弟夫婦の姿について、こう語っています。

「母の葬儀の際、兄たちは頂戴(ちようだい)したお香典を防犯の点から、わざとなんの変哲もないお菓子箱に入れておいたようです。ところが姉は忙しから、どこに置いたか忘れてしまった。姉が『どこにあるのだろう』と焦(あせ)っているのを見かけ

相手の「美点」を見つめる

道徳で人と社会を幸せに

た兄は、『そこがお前のいいところやけどな』と優しく言って、一緒に探し始めたのです。私は、兄のそのひと言に心打たれました」

Kさんたちは感謝の心の大切さを、日々、父親から説かれてきたといいます。相手を自分の大切な人と思い、感謝の心で接していれば、必ず「美点」は見えてくるのではないのでしょうか。感謝の心こそ、相手との距離を縮めていくのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(平成31年)4月26日(金曜日)

今日の企業においては、時間あたりの生産性を少しでも高めようとして、成果主義の名のもとに社員間の競争が奨励される場合があります。もちろん、社員同士がお互いに切磋琢磨(せつさくたくま)することは、組織を活性化し、企業間競争に生き残るためには不可欠といえますが、「同僚を押ししのけてでも、自分の仕事を早く進めたい」ということになれば、職場の雰囲気はギスギスして

わずかな時間を惜しむあまりに

道徳で人と社会を幸せに

中国の古典には「終身路(しゅうしんみち)を譲るも百歩を枉(ま)げず」という言葉があります。一生涯、人に道を譲り続けたとしても、そのために余分に歩いた距離の合計は百歩にもならないということです。

私たちは今、わずかな時間を惜しむあまりに「お先にどうぞ」という思いやりの心を失ってはいいのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)5月10日(金曜日)

心 見返りを求めない心

「惻隱(そくいん)の心は仁(じん)の端(たん)なり」という言葉があります。人の苦境を見て惻(あわれ)み隠(いた)む心、助けたいと思う心は、仁愛の心、慈愛の心の糸口であるという孟子の言葉です。

よちよち歩きの子供が川に落ちそうになっているのを見れば、われを忘れて駆け寄り、助けようとするものでしょう。そのときの心は、お礼を言われたとか、助けないと非難されるから、というものではありません。まさに見返りを求めない心

道徳で人と社会を幸せに

であり、慈愛の表れといつてよいものです。私たちは、誰もがこの慈愛の心を宿しています。

しかし現実には、人に優しく、親切にするよりも、自分にとって損か得かを考えて行動したり、人を不公平に扱ったりすることが多いのではないのでしょうか。

このように人の心には、よくも悪くもはたらくという二面性があります。だからこそ、日々優しさを発揮し、慈愛の心を大きく育てていく必要があるのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル心を育てる言葉」366頁

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)5月17日(金曜日)

心 地域を生かす、自分を生かす

都市化が進む中でも、地域社会の大切さを見直そうとする動きが全国各地で起こってきています。行政の協力を得ながらも、地域の抱えるさまざまな問題を住民一人ひとりの協力で解決していこうとするものです。例えば、「地域の大人が学校でお話をするなど、地域ぐるみで子供の教育を見守る」「一人暮らしのお年寄りを訪問し、食事を提供したり、話し相手になったりする」等の活動を行っている地域もあるでしょう。

道徳で人と社会を幸せに

それほど身構えて行うことではなくても、ほんの少しの時間と労力を他人のために役立てることで、地域に貢献することができ、また、自分自身も喜びと満足感を得ることが出来ます。何より、こうした活動を通じて自分たちが安心して気持ちよく暮らせる社会、子供たちが健全に育つ地域ができていくのです。地域のために何が出来るか、それを考えて行動に移すことが、初めの一歩ではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル心を育てる言葉」366頁

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)5月24日(金曜日)



誤解をされても「反省」

私たちは、自分に明らかな落ち度があつて人から非難された場合でも、そのことを素直に受け入れられないときがあります。ましてや誤解を受けたり濡(ぬ)れ衣(ぎぬ)を着せられたりして窮地に陥つた場合は、憤懣(ふんまん)やるかたない思いに駆られ、自分の正当性を強く主張するものでしょう。

もちろん相手の誤解を解いて、正しく理解してもらうための努力は必要です。しかし、こうした場合もただ相手を責め

道徳で人と社会を幸せに

るのでは、お互いの中に憎しみの心が育つだけではないでしょうか。まずは、誤解を受けて非難されるのは、まだまだ日ごろの自分に人からそう思われるような不完全な部分があるからではないか」と、みずからを振り返ってみるのです。そしてますます謙虚に自分のやるべきことに努め、心を磨いて周囲への思いやりを尽くしていくと、新たな道が開けてくるかもしれません。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル心を育てる言葉366日」

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
 住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
 公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
 E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)5月31日(金曜日)



子供の自立心を引き出す

初江さん(50歳)は、夫と三人の娘との五人家族。上の二人の娘は大学へ進学してひと安心、末っ子の輝子さんも大学へ進学するものと考えていました。ところが輝子さんは「製菓の専門学校に行く」と、進路を一人で決めてしまったようです。初江さんにはそれが一時の感情に思え、なんとか大学進学を勧めたいと思うのですが……。

親は、常に子供の成長を喜ぶものです。ところが、子供の考えが親の考えと違ってくる

道徳で人と社会を幸せに

と、つい親のエゴが顔をのぞかせます。そうしたときは、親自身も自分の心の動きをじっくりと見つめてみる必要があるでしょう。

子供が持っている「自立しようとする力」や「生きる力」をよりよく引き出していくためには、子供が何に喜びを見いだそうとしているのかを、子供の立場になって考えていくことが大切ではないでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル心を育てる言葉366日」

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
 住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
 公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
 E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)6月7日(金曜日)

心 **体験を通じて培う「感謝の心」**

高知県のある小学校では、子供の好き嫌いをなくすために、近くの農家の協力を得てお米づくりを体験させたほか、校庭の一部を菜園にして二十数種類の野菜を栽培しています。これを給食に利用した結果、子供たちは自分の育てた野菜が入った給食を、先を争って食べるようになりました。また、学校での態度も落ち着いてきました。この体験から「育てる喜び」を知り、自然の恵みや「食」に関わるさまざまな人々への感謝の気持ち

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル心を育てる言葉366日」

が、自然に培(つちか)われたのです。これに勝る「食育」はないでしょう。

私たちのいのちは、自然のいのちをいただくことで維持されています。いただきたいのちに感謝し、それをよりよく生かすための「ひと手間」を惜しまない——。そうした丁寧な生き方に、健康で心豊かな生活を築いていく秘訣(ひけつ)があるのではないのでしょうか。

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)6月21日(金曜日)

心 **他に求めるより、まず足元を正す**

学校の部活動や職場など、皆と協力して物事に取り組み場で、熱心さのあまり仲間と衝突したり、後輩への指導に熱が入って反発を受けたりした経験はないでしょうか。

私たちは、自分で「よいこと」「正しいこと」をしていると信じているとき、自分一人の価値観で物事を判断し、周囲への配慮を忘れてしまうことがあります。皆がこうしてくれればよいのに、という思いが生まれたときは、まず、自分自身の足元

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル心を育てる言葉366日」

から正していきましょう。相手を認め、相手の言葉に耳を傾け、相手を尊重すること心がけることで、自分自身の視野の狭さを乗り越え、より建設的で創造的な力を発揮できるようになるのではないのでしょうか。また、みずからなすべきことを少しずつ、ひたむきに行おうとする姿勢は、周囲の共感を呼び、皆で一つのことを成し遂げるエネルギーを生み出していくことではないでしょうか。

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2019年(令和元年)6月28日(金曜日)

心 **「馳走」の心**

アメリカからホームステイを受け入れることになった福田さん一家。その女性、カルメンさんはベジタリアンで、肉や魚はもとより、卵や乳製品も食べられないとのこと。滞在中、お母さんは旬(しゅん)の野菜を食べてもらおうとこまめに買い物に出かけ、工夫を凝らして食事をつくりました。もちろん家族はそろって同じ料理を食べます。

カルメンさんは、ベジタリアンではない一家が自分に合わせてくれたことに気づいたとき、

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル心を育てる言葉366日」

申し訳ない気持ちになりました。するとお母さんが「うちでは家族は皆、同じ料理を食べるの。あなたも日本にいる間は家族なんだから、気にしなくていいのよ」と。カルメンさんの表情はパツと明るくなり、心からの感謝の言葉を述べました。

「馳走」とは、お客様をもてなす用意のために奔走(ほんそう)することという意味です。一家のもてなしは、カルメンさんにとってまさしく「馳走」といえるものだったので

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155